

昭和29年度活動報告

第四回学習院定期戦

◇4月 甲南大球場

学習院大	1	0	0	1	0	0	0	0	2	バッテリー (甲)緒方・川森一 (学)島村
甲南大	4	1	0	0	0	0	4	0	×9	

第四回全近畿大学野球大会

◇5月12日山本球場 (1回戦)

神医大	2	0	0	0	0	0	0	1	0	3
甲南大	1	1	1	2	0	0	0	1	×	6

▽二塁打岡本(神)
バッテリー
(神)瀬藤一石川
(甲)緒方—奥田・谷佐田

◇5月13日山本球場 (2回戦)

浪速大	0	0	0	0	0	0	1	1		
甲南大	0	0	2	0	2	0	2	×	8	×

▽三塁打左雲(甲)
▽二塁打島中(浪)
バッテリー
(浪)越智・山辺—島中
(甲)村井・田村—奥田
※8回コールドゲーム

◇5月18日山本球場 (準決勝)

兵農大	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
甲南大	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1

▽二塁打達富(甲)
バッテリー
(甲)村井—緒方—谷佐田・奥田
(農)是枝—前川
※延長14回

◇5月19日山本球場 (決勝戦)

大歯大	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
甲南大	0	0	0	0	0	2	0	0	×	12

▽二塁打川村(歯)2
バッテリー
(歯)山村—川村
(甲)緒方—奥田

戦評 参加十七校が覇を競った訳であるが、昨年度に引き続き甲南大学が二連覇し、全国大会、西日本大会、国体予選の出場権を得た訳である。

阪神六大学春季リーグ戦

◇5月25日神戸銀行球場

大商大	1	0	0	1	0	1	5		
甲南大	0	0	3	0	0	0	3		

▽本塁打坂本(商)▽三塁打近江(甲)
▽二塁打福田(商)
バッテリー
(甲)田村・緒方—奥田
(商)坂本・福田—島田・高橋

◇5月26日神戸銀行球場

甲南大	2	3	0	0	0	0	6	11	
大商大	0	1	0	0	0	0	2	0	3

▽本塁打高橋(利)(甲)・坂本(商)
バッテリー
(甲)川森・緒方—奥田・谷佐田
(商)池田(一)・福田—島田

◇5月27日神戸銀行球場

甲南大	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
関大短	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

▽三塁打谷佐田(甲)
バッテリー
(甲)村井—谷佐田・奥田
(関)山口—平井

◇5月28日長居球場

関大短	2	0	0	1	0	0	0	1	4
甲南大	0	3	0	0	0	2	0	3	×8

▽三塁打橋本(甲)・牧野(関)▽二塁打左雲(甲)
バッテリー
(関)山口・松森—平井
(甲)田村・緒方—奥田

◇5月31日長居球場

甲南大	6	0	2	2	0	0	1	0	11
大工大	0	0	0	0	1	1	3	1	7

▽三塁打青木(甲)
▽二塁打橋本・中川②(甲)・中田・春田(工)
バッテリー
(甲)田村—奥田—佐久間・谷佐田
(商)井上一福田

◇6月1日長居球場

大工大	0	0	0	0	0	0	0	0	0
甲南大	3	2	0	0	4	0	0	3	×12

▽本塁打中川(甲)
▽三塁打近江・橋本・中川・青木(甲)
バッテリー
(工)山下・萩岡—福田
(甲)川森—谷佐田・佐久間

◇6月3日長居球場

大学大	0	0	3	0	0	0	0	0	3
甲南大	1	0	0	6	0	0	1	2	×10

バッテリー
(学)和田・秋田 山下
(甲)緒方・中川 奥田

◇6月4日長居球場

甲南大	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
大歯大	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

バッテリー
(甲)緒方—奥田・谷佐田
(歯)山村—川村

◇6月7日長居球場

大歯大	0	—	9	甲南大
〔没取試合〕				

◇6月15日長居球場

甲南大	3	1	0	0	0	4	0	0	0	8
大学大	0	0	4	0	0	0	0	0	0	4

▽三塁打青木(甲)
▽二塁打上田(甲)
バッテリー
(甲)田村・川森—佐久間
(学)秋田・藤存—山下

〔個人成績〕

最高殊勲選手 橋本博光(甲南)
首位打者 近江五郎(甲南)

第二回西日本大会

◇7月14日松山市営球場

甲南大	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
神外大	1	0	0	0	0	0	0	1	×	3

(甲南大) 8 7 1 2 7
振球機盗球
(神外大) 2 2 0 2 9
▽三塁打藤田(外)

〔神外大〕	打	安	点	失
③ 岩井	5	1	0	0
④ 宮本	5	0	0	0
② 吉岡	3	1	0	0
⑦ 藤田	5	4	2	0
① 宇野	5	0	0	0
⑨ 吉田	3	0	0	0
9 林	2	1	0	0
⑧ 小坂	5	1	0	0
⑤ 半沢	4	1	0	1
⑥ 沖吉	4	0	0	0
計	41	9	2	1

〔甲南大〕	打	安	点	失
③ 藤原	5	1	0	0
④ 橋本博	3	0	0	2
⑥ 近江	5	0	0	2
⑦ 中川	5	0	0	0
⑨ 西村	5	0	0	1
⑧ 上田清	3	0	0	0
⑤ 高橋	3	1	0	0
① 緒方	4	1	2	0
② 左雲	2	1	0	0
計	35	4	2	5

戦評

神外大は二連戦にもめげず闘志をもち、初回先取点をあげたが甲南四回2四球と安打を好走塁で二点をあげ、勝ち越したが神外大は八回、藤田の三塁打で追いつき延長にもちこみ十一回三塁打投であっけない勝利点をあげ甲南を破った。

第六回全日本大会

◇7月29日八王寺富士森球場

甲南大	5	0	0	0	0	0	1	6
愛知学大	0	0	0	0	0	0	0	0

(甲南大) 5 10 1 1 0 8
振球機盗球併殺
(愛知学大) 9 3 0 0 0 4
▽二塁打二村(愛)

〔愛知学大〕	打	安	失
⑧ 9 二村	4	1	0
⑤ 毛受	3	0	0
PH 中野	1	0	0
⑨ 2 安藤	3	1	0
PH 山本	1	0	0
③ 佐藤	4	0	0
① 8 勝谷	2	0	0
② 中村	0	0	1
9 7 中村	3	0	0
⑦ 1 丹羽	3	0	0
⑥ 丹木	2	0	0
④ 飯田	2	0	0
4 吉川	0	0	0
計	28	2	1

〔甲南大〕	打	安	失
④ 橋本博	2	0	3
⑤ 高橋(兼)	2	1	0
6 橋本(正)	1	0	0
⑥ 近江(五)	2	0	1
⑤ 青木	2	0	0
⑦ 中川	4	2	0
③ 谷佐田	4	0	0
⑨ 西村	3	1	0
1 川森	1	0	0
⑧ 上田	3	0	0
① 9 織田	2	0	0
② 奥田	4	0	0
計	30	4	4

戦評

愛学大はエース勝谷に執着しすぎて破れた。リリーフした丹羽がきれのよいカーブで二回以後二安打に抑えられたのだからもう少し攻撃力があれば勝てたかもしれない。両チームとも打力にかけ試合運びは粗雑だった。

◇7月31日八王寺富士森球場

中	大	0	0	0	0	0	0	0	1	1
甲南大		0	0	0	0	0	0	0	0	0



昭和29年第6回全日本大会(於八王寺)

(中央大) 202105
振球機盗併残
(甲南大) 621123

[中央大]	打	安	失
⑧ 渡 辺	4	0	0
⑦ 岸	4	0	0
⑤ 田 村	3	1	0
② 吉 清	4	2	1
③ 寺 水	3	0	0
⑨ 芝 岡	2	1	0
9 大 地	1	0	0
⑥ 森 端	3	0	1
① 小 計	3	1	0
④	3	1	0
	30	6	2

[甲南大]	打	安	失
④ 橋本(博)	4	0	0
⑤ 8 高橋(優)	3	1	3
⑥ 近江(兄)	4	0	1
⑦ 中 川	3	0	0
③ 谷 佐	2	0	0
⑨ 西 村	2	0	0
⑧ 上 田	2	0	0
5 青 木	1	0	0
① 緒 橋	2	0	0
PH 橋本(正)	1	0	0
1 川 森	0	0	0
② 奥 田	3	0	0
	計	27	14

中央大に善戦

戦評

中央大が五回一死二・三塁の絶好の先制機を併殺にしりぞけられ、甲南の緒方の速球を打ちあぐんでいたが、七回敵失に出た岸を吉田が中前に快打し、一点をあげ勝った。

オープン戦

◇10月

神医大	0	0	0	0	1	0	0	1	2	(甲) 榊原一
甲南大	0	0	0	0	2	0	0	1	3	

阪神六大学秋季リーグ戦

◇11月1日立花球場

関大短	1	0	0	0	2	0	0	0	3
甲南大	0	0	0	0	1	0	1	0	2

(甲) 榊原一 (関) 松森

◇11月2日立花球場

甲南大	0	0	0	0	2	2	0	1	5
関短大	0	0	1	4	0	2	0	0	7×

(甲) 川森一 (関) 山口一

◇11月4日立花球場

大学大	0	0	0	0	1	0	1	0	2
甲南大	0	3	1	0	0	0	0	1	5×

(甲) 中川一

◇11月5日立花球場

甲南大	0	2	0	0	0	3	2	0	2	9
大学大	1	0	0	0	2	0	0	1	0	4

(甲) 川森一

(秋季リーグ戦成績表) 表彰選手ベストテン不明

2 甲南大 7勝3敗

第五回学習院定期戦

◇11月12日学習院大球場(第1試合) ◇11月13日学習院大球場(第2試合)

甲南大	0	2	1	0	0	0	0	1	0	4
学習大	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
甲南大	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
関短大	0	0	0	1	2	0	0	0	0	3×

(甲) 川森一
第3試合 不明

〔運動部めぐり〕 甲南大学新聞掲載 29・4・21

大学開設と同時に、唯一の運動部として、当時の一回生の声援と助力により結成され、学生の注目の的として、光輝あるスタートをしており、ここに四年の歳月が流れ、いまや関西いや、全国軟式野球界に“甲南あり”と名を轟かせ得たのは、優秀なプレーヤーを有し、さかんになる闘志に燃え立ちかつ洗練された技術という野球の徹則たる必要条件が、当部に具備されているからである。しかしながら、どの運動部においても同様であるが結成当時は見る影もなき状態であり、大敗惜敗の後の研鑽努力が、今日の野球部の真の姿である。現在、慣例の阪神六大学リーグ戦には、連続優勝をとげ、昨年度は西日本大会に出場して善戦し、引続き近畿大会には、晴のペナントを獲得して、全国大会に出場して、全国大会に出場するなどの業績は、全国に確固たる地位を築くとともに、運動部を代表して、甲南の名を全国に風靡するに十分である。

池浦主将を中心に、緒方、村井の投手陣は健在で、高橋、近江の三遊間コンビはますます鉄壁となり、藤原、中川、西村の強打はしばしば味方を有利に導き、持前の粘り強いファイトと、洗練されたチームワークは、連日の猛練習を如実に物語り、対学習院定期戦を皮切りに始る今年度のスケジュールに部員一同文字通り切磋琢磨している。

思い出思いつくままに

池浦 弘倫

学窓を去って十年を経過した今日、当時を回想して思いつくままにペンを走らせてみる。
昭和二十六年四月我々は開校と同時に入学、県立神戸高校、甲南高校卒の愛球家を主体とした約二十名を以って野球チームを編成したのが現準硬式野球部の由来である。当初は近校チームを相手にラグビースコアの大接戦を演じ、いわゆる草野球の域を脱しなかったが、野球が飯より、いや酒よりも好きな連中が一団に野球に専念したことや関係各位の御協力に依り阪神六大学リーグ戦優勝を足場に三年に進級するや、初の公式大会への出場権を獲得した。現在迄記憶に残る思い出には西日本大会に於て地元の宿敵関学に接戦の末サヨナラ犠飛で破れたこと、全国大会に於ける対慶大戦の快勝等、紙面の関係上一々列挙は出来ないが最も印象に残るシーンは東京で行われた昭和二十九年度全日本大会準々決勝に於て中大に破れ、すべてが終わった時だろう。一対〇でリードされた最終回の二死後野球部さつての快足高橋(優)が一塁に居たのをはつきりと憶えている。中大捕手の強肩は百も承知していたが、彼に二盗をサインし成功した。打席に立つ当時三年の近江(兄)は若干顔面紅潮していたが打球はバットの芯に当たった。標本の如きライナーで瞬間同点を予想したが不

運二塁手の正面を突いて万事休した。過去四年間夢にまで見た全国優勝の野望はこの一瞬でついで、旅館へ引きあげる同級生の目はしめっぽかった。併し在学当時球友と苦楽を共にした四年間足らずながらも我が野球部が一応の戦力を有するチームに成長し、しかも社会人になってから野球を通じていくらかでも友好を広めるに役立った事を思えば、他の何物にも代え難き貴重な体験だったとしみじみと考えさせられる。

現役野球部諸君、アマチュア野球の勝負は実力と運勢以外に精神力が微妙に左右し、その精神力も練習によって養われる。練習時には「オレは日本一のヘタクソ」と思い、ゲームにのぞんでは「オレより上手は居ない」と思うべし。

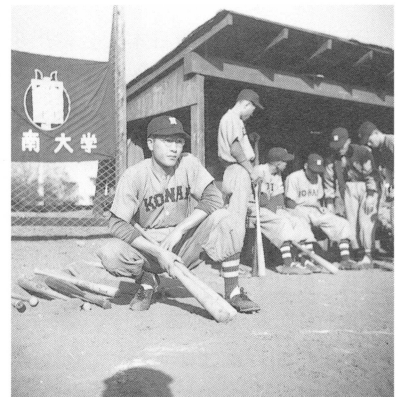
昭和29年学習院グラウンド



エース 榊原 三郎〈4期〉



創部早々の応援部



ベンチ前“近江 五郎”〈2期生〉



創部早々の部員達